

自蹊庵便り

平成三十一年 弥生

NO 136

く心得という世界を痛み分けく

平成最後の今年の暁は雪に見舞われ、極寒に相応しい茶事になりました。早朝四時の席入りでは、お車で御来庵の皆様方の凍結の心配もあり、五時にしましたが、やはり一時間のずれは、それなりに締めりのない明るさになってしまいました。

心からのお持て成しの体现、楽しんで頂くこと、ピーンと澄んだ気の満ちた茶事との間はざまで右往左往、一会一会課題の多いことにごさいます。

課題と云えば今一つ、大きな課題に直面いたしております。昨年より大徳寺瑞峯院茶室余慶庵にお世話になっておりますが、

五月の茶室の完成と共に、毎月、御家元の脇宗匠であらせられる諸先生方による利休忌二十八日の月釜、月釜には毎月二く三百名の皆様が御参加なされるとのこと。

昨年十一月には御家元の襲名披露のお席として四、五百名の皆様が御参加なされたと伺っております。そのような最高峰の舞台を使わせて頂くことは、身に余るとい言葉さえおこがましく、唯々、心引き締めての覚悟にございました。

そのような中で昨年七月には朝茶を二日間、夕ざりを一日いたしました。朝茶には早朝五時より開門くださり、夕ざりには夜八時過ぎの閉門となり、御寛大なる御協力を賜つての実現にございました。また十一月には口切り二日間、夜咄二日間、誠に深い御理解を賜つての実現にございました。

なれど、早朝のお勤めをしておられる隣室にての待合では「お静かに！」と注意を受け、長い廊下をキャリーバッグの音を立てて引きずったり、廊下での電話、コート

を着たまま、こんにちは…だけで入ってきたのでは、観光客の絶えない中、拝観料を戴いていいお客かどうかとも判断つきかね何とも心足らぬ事続出、皆々亭主の不心得によるものがございます。

参加者の皆様のせいになるものは何一つなく、皆々亭主の心至らぬ結果が招いたことです。亭主である私が、余慶庵を使わせて頂くにあたり、心得というものを箇条書にして、京都教室参加者の皆様にお便りと共に送付しておくべきことでした。

どんな小さなことも、(修行に大きい小さいは無いと思うのですが…)一つ一つを丁寧に瞬間瞬間を掬い取り、先人の声を聴き、

茶の湯者達が残してくれた、茶事というものの本質を学ぶべき場として、技量不足を重々承知の上ながら、昌道御老師様はじめ、御住職様の深い御理解、御好意のもとに甘

えさせて頂いてのことにございます。

オリンピックを前に外国の観光客も多く、これからの桜の季節、紅葉の季節と、御多忙並々ならぬ中での御理解、御協力、余念無く最終チェックをしたつもりでも、鱗が飛び散っていた現実、茶事は一人では調わず、共に手を携えて昨日よりは今日、今日よりは明日と、半歩でも一歩でも前進し合える同志がいて初めて成り立つもの、湯相、火相のピタツと調ったところで御濃茶を点てられるかどうか、茶事の面白さ、楽しさを分かつには、共に育ち合っていく同じ志を抱いている同志が必要なのです。

どうかこの号の便りを読まれた皆様の中には苦言の心当たりの方もおられることでしょうか。でも、決して必要以上に落ち込まないでください。全ては亭主の責任でございます。亭主の技量が招いたこと、そして、同志である心優しい皆様を傷つけてしまったこと、皆々私の心得至らぬゆえの事でございます。

真っ直ぐ前を向き、一つ一つの御縁を大切にし、はかなさと背中合わせの命というものの奇跡を、茶事というものを通して体現し、命の移ろい、時の移ろいを一期一会の中から掬い取り、感じ取る作業、苦を苦と思わず、怯まず、一瞬一瞬の気働きを体に叩き込む作業、生きる知恵と息吹の根幹が凝縮している茶事というもの、実に多くの苦が秘そんでいるものです。瑞峯院様に御迷惑をおかけした諸々はその苦以前の人としての常識の類にあたります。その上で

苦の一つ一つを苦にせず、拾い続けていく作業、良き御縁、良き仲間がいれば、苦を分け合い宝になっていくはず。苦を拾い続けていく作業、お人は宝です。御縁は宝です。苦を宝に変えることの出来るは私だけではできません。皆様お一人一人の力を必要といたします。

先号に続き、この度の便りも惨敗にございます。誰に負けたのですか？それは自身です。お訪ねくださった皆様との御縁、

大きな意味で尊いファミリーと思っております。ゆえに皆様を悲しませることがなきよう、亭主というもの、心して参りたいと存じます。

全ての出来事は亭主と正比例しているものと思っております。この号に目を通された皆様、数々の苦言を共に宝となるよう日々努力してまいりましょう。しかしながら幾度ももうしますように、亭主の心得届かぬゆえの諸々にございます。心の痛み分け…と思つて心して頂ければ有難く存じます。十年ぶりほどで、うっかり風邪をもらってしまいました。インフルエンザも流行っております。どなた様もくれぐれも大事になさってくださいませ。末尾ながら暁の茶事に極寒の中、遠方より御来庵くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

茶事教室の御案内 東金教室

弥生の茶事（雛）

三月十日（第二日曜）

三月十一日（第二月曜）

三月十二日（第三火曜） 研究科

席入り 正午

卯月の茶事（観桜）

四月十四日（第二日曜） 昼間

四月十五日（第二月曜） 昼間

四月十六日（第二火曜） 早朝

席入り 正午

両月とも

点前担当者、水屋実習者 午前九時

八時半に大網駅にお迎えに上がって

おります。

会費 一万円（レギュラー者）

一万二千元（単発参加者）

○連日研修者は、翌日は五千円参加です。

三月の京都教室の詳細

大徳寺 瑞峯院 余慶庵

三月二日（土） 準備

三月三日（日） 実習九時～

茶事 十二時～四時

翌日準備 四時～五時

三月四日（月） 三日に同じ

三月五日（火） 残り福点心の会

優食会 正午～二時半

片付 三時～五時

点心の会のみ参加者 一万円

連日参加者 五千円

三月六日（水） 朝の一服・片付

朝の一服会 午前六時～八時

掃除 午前九時～十一時 解散

無料（一服会のみ参加者三千円）

宿泊施設にて、三日～五日

午後七時半～午後九時に利体会記を読

み解く会を予定しております。（無料）

五月の京都教室についての御連絡

今年の五月は十連休となり、

大徳寺界限は大変な混雑が予想
されます。

そのため、会場・時期を変更い
たします。

三月に入り、更に変更いたしま
した。

開催日時は、

五月十一日（第二土曜）～

十三日（第二月曜）

会場は大原の予定ですが、まだ
未定です。

五月の東金教室についての御連絡

京都教室期日変更に伴い、

五月十九日～二十一日となりま
す。

湯河原教室 口悦会

利休会記を読み解く会

三月十七日(第三日曜)

三月二十三日(第四土曜)

旬の食材を馳走に!

四月二十七日(第四土曜)

三月十八日(第三月曜)

午前十時から正午

利休会記を読み解く会

一服と昼食込みの場合

午後一時半まで

四月二十一日(第三日曜)

携帯 090-5234-6113

旬の食材を馳走に!

会費 三千元(会のみ)

四月二十二日(第四月曜)

五千元(昼食・一服付)

利休会記を読み解く会

会場 羅漢亭(目黒羅漢寺内)

会費 一日五千元

交通案内

二日間 八千元

目黒駅よりタクシーが

便利です。

申込は、事務局 服部 宏子様

ワンメーターで行きます。

神奈川県足柄下郡

徒歩の場合十五分です。

湯河原町宮下75713

※要予約です。

046512015932